

～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

【第65回】 経営と時間の関係



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL: <http://sien.co.jp/>) 代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

ギリシャ神話では時間に関して2人の神が存在します。ひとり均等な時間の流れを司る「クロノス」で、もうひとりはその時間の中の一瞬一瞬を司る「カイロス」です。「クロノス時間」は、過去から未来へと一定速度・一定方向で機械的に流れる連続した時間を表現し、「カイロス時間」は、一瞬や人間の主観的な時間を表わしています。

人間の成長や経営は、時間と密接な関係を持っています。誕生や創業以来時間は刻々と刻まれていきます。そしてその成長や発展において、必ずエポックメイキング的な象徴的な出来事がある、人間や組織は次のステージに立ちます。一日、毎月、毎年という時の流れは「クロノス時間」です。3年後、5年後にこのような会社になりたいと思ひ、様々な取り組みを行う時間は「カイロス時間」です。実は、このクロノスとカイロスの組み合わせが人間の成長や経営の本質です。

時間軸を俯瞰する

2018年が暮れ、明ければ2019年です。日本では平成という年号が31年間をもって終了します。来年は、明治151年、大正107年、昭和93年に当たります。昭和20年の終戦から数えても74年目に当たります。すでに昭和という時代ですら歴史の彼方にあると言っても良いかもしれません。

明治時代をもって近代化が始まり、恐慌や戦争を乗り越え、高度成長や数々の経済ショックを経て今の社会は成立しています。歴史そのものがクロノスとカイロスの組み合わせであることはこうした時間軸を俯瞰してみると理解しやすいかもしれません。同時に自分たちの会社の創業年数を重ねてみるとその時その時を支えた先輩にあたる組織人たちの奮闘ぶりが偲ばれるのではないのでしょうか。

カイロスはチャンス之神

どんな人間を採用するか？どのように人間を育成するか？どんな顧客を獲得したいのか？どれだけの売り上げと利益を必要としているのか？最終的に誰に組織を継承してもらうのか？…こうした

事柄は、クロノスの時間の中でカイロスの時間を作り実現しなければなりません。

カイロスは、ギリシャ語で「機会(チャンス)」を意味する *καίρος* を神格化した男神です。カイロスの風貌の特徴として、頭髪が挙げられ、後代での彼の彫像は前髪は長い後頭部が禿げた美少年として表されており、「チャンス之神は前髪しかない」「好機はすぐに捉えなければ後から捉えることは出来ない」という例えになりました。そして、両足には翼が付いているとも言われています。

新しい年に向けて

さて1年の終わりです。何かの終わりは同時に何かの始まりを示しています。新しい年を迎えるにあたり、時間軸を広げて経営や育成について考える必要があります。社会システムの変更や技術の進歩、グローバル化によってともすれば一瞬一瞬に目を奪われがちですが、経営や成長は普遍的な本質を持っています。つまり「時間」との関わりです。

3年後、5年後、10年後、どんな会社にしたいのか。どんな人たちと働きたいのか。そうした事は緻密な「経営計画」からしか生まれてきません。

今年も1年間大変お世話になりました。

全国や九州各地の企業を訪ねて個人的に感じたことは【組織の二極化】でした。時代変化に合わせ組織変革を強く進めている組織と、従来型の思考から抜け出せず呻吟している組織の対比が目立ちました。確かに都市部と地方の格差は広がっていますが、それ以上に企業間格差が広がっているのではないかと考えています。倒産件数よりも自主廃業件数の方がはるかに多いという現実からもそうした【二極化】が窺えます。

来年は2020年以降の大変化に備える大切な年になります。それぞれのフィールドで大変化に備えた活動を行っていただければと思います。

来年もよろしく願いいたします。皆さま、良いお年をお迎えください。